

■四万十市西土佐地域について

日本最後の清流 四万十川。その中流域の山間にある西土佐地域は、緑の山々に囲まれた自然豊かな地域であり、昔から四万十川が暮らしの中であり、四万十川とともに生活しています。

平成 25 年 8 月には当時の日本最高気温となった 41 度を記録し、日本一暑いまちとして町おこしを行いました。

そんな西土佐地域も全国の市町村と同じく、人口減少が課題となっています。平成 27 年には 3,068 人の人々が生活していましたが、10 年後の令和 6 年には 2,376 人となり、65 歳以上の人口が占める高齢化率は 52%となっています。四万十川を中心とする魅力の発信を通じて、移住希望者の受入増加、住環境の整備、雇用の創出が急務となっています。



■西土佐の食

四万十川が育んだ天然鮎は「香魚」と呼ぶにふさわしい川の香りが感じられ、伝統漁法で捕れた天然鰻は肉厚で、炭火で焼き上げると身は弾力のある食感となります。四万十川だけでなく支流で育った鮎も美味しく、年に 1 回、どの川で育った鮎が美味しいかを決めるコンテストも開催されています。

また、西土佐地域では年間約 100 頭しか出荷されない幻の黒毛和牛「四万十牛」も有名で、甘くとろけるような食感が特徴です。



■西土佐の観光スポット

①沈下橋



テレビや雑誌の影響で四万十川といえば沈下橋をイメージする方も多いのではないのでしょうか。近年ではアニメや映画にも登場する機会が増えてきました。沈下橋は生活道として人々の暮らしを支えている道です。増水時に橋が流されにくいよう欄干がないのが特徴で、四万十川に根付く先人の知恵と言えるでしょう。

②黒尊溪谷



四万十川の支流の1つである黒尊川。平成の名水百選にも選ばれており、四万十川水系では最も透明度が高い川です。県内外から多くの人々を魅了する黒尊川ですが、秋になると紅葉のスポットとして多くの人で賑わいます。

③道の駅よって西土佐

西土佐地域の新鮮な農産物や特産品を購入できる道の駅。隣接するストローベイル SANKANYA は地元食材を使った優しい甘さのスイーツが人気。鮎市場では四万十川の天然鮎の塩焼きを堪能することができます。また、手ぶらでも本格的なバーベキューも利用することができ、日本バーベキュー協会上級インストラクターのガイドも受けることができます。



■ホテル星羅四万十

四万十川を見下ろす高台にある宿泊施設。客室から眼下に広がる四万十川、夜に見上げると満天の星空が利用者を癒してくれます。実は西土佐地域は愛媛県や足摺岬などの高知県西部の観光スポットとのアクセスも良く、星羅四万十は毎年 5,000 人を超える観光客が利用する人気のホテルです。

ホテルでは毎日、季節の星座や星の案内を行う天体観望会を開催しており、スタッフが天の川と四万十川を繋ぐ案内人「星憧アテンダント」となり、星の世界に足を踏み入れる子ども達から大人まで幅広く楽しむことができます。



■四万十天文台

実は西土佐地域は旧環境庁から「星空の街」として認定されており、人家が少なく、星空が鮮明に見えるこの場所は天然のプラネタリウムと言えるでしょう。ホテル星羅四万十が開催している天体観望会では、四万十天文台に設置されている 360mm 反射望遠鏡「四万十スター」で様々な天体を見て、案内を受けることができます。肉眼では見ることができない惑星や星雲を観測でき、きっと忘れられない体験になります。



■実際に西土佐地域へ移住してみて

兵庫県⇒西土佐 須山さんの場合



Q：移住しようと思ったきっかけを教えてください。

A：子育てに悩んでいたこともあり、元々川のある暮らしに憧れがあったため、2002年に家族3人で西土佐に移住して来ました。

Q：移住に関する面白いエピソードはありますか？

A：ご近所さんからイノシシを1頭まるごといただくことがあります。家族で食べきれないこともあるため、申し訳ないなと思っていたら、ご近所さんから冷凍庫もいただきました。

Q：お仕事は何をしていますか。

A：四万十市の集落支援員として黒尊川流域の方々の「やりたいこと」をサポートしています。将来に向けて通院や買い物の環境を整えたいという声があり、今は機能している助け合いの仕組みを支えるお手伝いをしています。

Q：これからしてみたいことはありますか。

A：西土佐で子育てをして本当に良かったと思っているので、多くの人に西土佐で子育てをして欲しいです。あったかい人々と自然に囲まれた素晴らしい環境があるので、若い人たちにも来てもらいたいです。